

住民発！ひびきの地区 小地域福祉活動第一次計画（2024～2028）



 ひびきの地区社会福祉協議会



ひびきの地区は、まだまだ高齢化率が低く、子どもも多い地域ではあります。しかしながら、全国的にも少子高齢化に伴う様々な問題が出てきている現在です。これからも皆さんが安心して暮らしていける地域づくりのために、地域の関係者で話し合っ、今後の活動方針となる5年間の計画を作成しました。皆さんにはこの計画、そして地域での活動を知ってもらうことが、ひびきの地区の未来づくりの力になります。是非ご一読ください！

ごあいさつ

私たちのまち、ひびきの地区は、若松区の西に位置し、学術研究都市整備事業として開発された地区と、現在も田畑が広がる地区から成り立っています。

また地区内には複数の大学・研究機関等の設立により、留学生や外国の研究員も在籍し、国際色豊かな地区となっています。

自然との共生を目指した住宅地には、新たに壮年世代を中心に転入者が増加、このため地区全体では高齢化率が5.4%と、北九州市の高齢化率が31.4%です。大変低く、若い人たちが多く居住している地区となりました。一方、古くからの居住地である大字大鳥居、大字小敷は、市の高齢化率を上回る年齢構成となっています。

昨今は、少子高齢化に伴う諸問題が危惧されている中で、地域福祉を推進するにあたり、生活に関する困りなどの地域課題を地域住民が、主体的に解決に向けて関係機関・団体と連携を図り取り組むことが求められています。

先に述べた地区全体の高齢化率の低さから、身近な課題として地域福祉活動の必要性や理解を得ることが難しい現状があります。しかしながら、戸建ての多い新興住宅地の特徴である時間の経過とともに、地区全体が急激に高齢化が進むこと。未来への警鐘として、2025年問題や2040年問題に関しても注視する必要があります。

このような状況を背景に、将来を見据え、今のうちに出来ることから取り組もうとの思いから、今回「ひびきの地区小地域福祉活動計画」（5年間）を策定しました。策定によって、どのような目標で、どのような活動をしていくかが「見える化」され、地域の皆さんと共通認識を持つことが出来ると思っております。

この計画の実施に対しての地域の皆さんの更なるご理解とご協力をお願いする次第です。

最後にこの計画の策定に当たりご尽力、ご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

ひびきの地区社会福祉協議会
会長 木下 秀雄

もくじ

ごあいさつ	…1P
第1章 計画策定にあたって	…2P
1 計画の性格	
2 計画の期間	
3 計画の策定経過	
第2章 ひびきの地区の現状と課題	…3P
1 地域社会の動向	
2 地域の福祉課題	
第3章 計画体系	…4P
1 基本理念	
2 基本目標	
3 実施項目（体系図）	
4 重点実施項目	
第4章 計画の推進	…7P
1 計画の承認と周知	
2 計画を推進するための体制	
3 第2次計画の策定	
参考資料	
1 推進委員会名簿（予定）	
2 策定委員会での協議事項	

第1章 計画策定にあたって

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

ひびきの地区の様々な福祉課題を解決するために、地域住民・諸団体等が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための行動計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

ひびきの地区に住む人たちの「生活」を支えることを活動の基本とする計画です。

(3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会と連携する計画

北九州市及び北九州市社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4) 若松地区社会福祉協議会の活動指針となる計画

社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

2 計画の期間は

令和6年度から令和10年度の5ヵ年とします。また期間中に地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直します。

3 計画の策定経過

計画策定は社協役員及び地区民児協の民生委員の方々を中心に作成を行いました。

ひびきの地区の課題や現状、今後必要なことなどについて、協議を重ねる中で、

- ・社協の活動、民生委員の活動について、住民の理解と協力を得るために、広報活動に力を入れ、賛同者、協力者を増やしていく。
- ・高齢者の健康づくり、仲間づくりにサロン活動を充実させる。市民センターが遠いという高齢者のために、身近な開催場所、公民館等を活用する。
- ・高齢者の健康づくりに良いと言われるグラウンドゴルフの普及を図り、将来、地区内の交流大会の開催を目指す。
- ・見守りを必要とする人を見つけ出すために、民生委員と福祉協力員の関係が必要。担当地区の福祉協力員と顔合わせ、連絡先の交換等、協力関係を築いていく。
- ・福祉協力員は、組長が兼務、現役世代が多いため、活動に限界がある。負担の少ないさりげない見守りをお願いしていきたい。
- ・10年後、20年後には、住環境が同じような青葉台のように高齢化が進んでくる。今のうちに、基盤をしっかり作っておき、将来に備えておくことが必要。

などの意見が出て、活発な意見交換を行い、これらを踏まえた体系図(案)の作成と修正についての意見交換も行い、3月に計画を策定。策定した計画については、自治会やまち協の会議の場で説明、周知を行いました。

第2章 ひびきの地区の現状と課題

1 地域社会の動向

ひびきの地区データ

令和5年9月30日現在※参考程度に

人口	8,693人	保育所	大鳥居保育園、ひびきの保育園
		幼稚園	光貞幼稚園、CIC 英語幼稚園
世帯数	3,368世帯	小学校	ひびきの小学校
		特別支援学校	小池特別支援学校
高齢化率	5.4%	活動拠点	ひびきの市民センター 塩屋公民館 大鳥居公民館 小敷公民館
一人暮らし高齢者数	97人	地域包括支援センター	若松2
高齢者のみ世帯	74世帯		
その他社会資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学、北九州市立大学などのキャンパス、留学生会館など ・NPO あそびとまなび研究所（子ども食堂の展開、支援など） ・カーニバル、コスモス、コストコなどの生活施設 ・グループホームひびきの虹色館、介護老人保健施設グリーン・ヒル若松などの福祉施設や三好内科・循環器科クリニック、若戸病院などの医療施設 		

ひびきの地区は、若松区西部、北九州学術研究都市の中心地区であり、北九州市立大学や早稲田大学情報生産システムセンターなどもある文教地区のため、学生などの若い世代も多く生活されており、全体では高齢化率は5.4%と低いです。一方で高齢化率50、または40%を超える地域もあり、地区内でもかなり特徴差のある地域です。

先に述べた特性から、地域の中心地区であるひびきの地区には上記のような多様な地域資源がありますが、福祉施設とはサロン活動を通じ連携が図られていますが、他の社会資源との連携はなかなか難しい現状があります。

2 地域の福祉課題（および小地域福祉活動の課題）

ひびきの地区は全体としては高齢化率が低いことから、福祉協力員によるふれあいネットワーク活動、民生委員・児童委員による見守りなど、地域の基盤となりうる活動の必要性が高くないという現状があります。そのため、他地域以上にそういった活動への理解・周知が進んでいません。

さらに活動者の確保についても、福祉協力員は自治会の組長が兼務していただいておりますが、現役世代かつ自治会の役割もされているため、定期的な訪問や研修課の参加など厳しいものがあり、見守り活動も出来る範囲での活動（さりげない見守り）に取り組んでいただいております。多くの社協協力員が1年で交代するため、また一からという流れが繰り返され、定着にはなかなか結び付きません。

将来の高齢化に対応するために、社会福祉協議会の活動について理解・協力を得ることが必要であり、関係団体と連携を密にして、人材の確保に努めていかなければなりません。



第3章 計画体系

1 基本理念 「みんなが安心して暮らせる 支え合いのまちづくり ひびきの」

ひびきの地区では、高齢化率が低い現状のうちに、未来を見据えて、子どもから高齢者まで障がいのあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して生活できるまちにしたいと願っています。そこで「みんなが安心して暮らせる 支え合いのまちづくり ひびきの」という言葉を計画の理念とし、計画を推進していきます。

2 基本目標

(1) 組織の強化を図る

まだ高齢化率は高くないですが、いずれ訪れる高齢化とその時に生じる課題に対応するため、既存の体制を強化することが目的です。

- ・役員や協力者の確保、後継者の育成
- ・広報紙を通じた社協及び民生委員活動の周知・理解
- ・福祉に関する研修の実施



(2) 地域福祉の心を育む

地域住民の方々を対象とした広報・啓発活動の展開や、次世代を担う子どもたちを対象にした交流事業を実施することで、触れて・学び・知ってもらえる機会を増やし、理解者・協力者確保や福祉に関する意識を高めることが目的です。

- ・広報紙を通じた社協及び民生委員活動の周知・理解（再掲）
- ・子ども等世代間交流事業の実施
- ・福祉に関する学習会等の実施



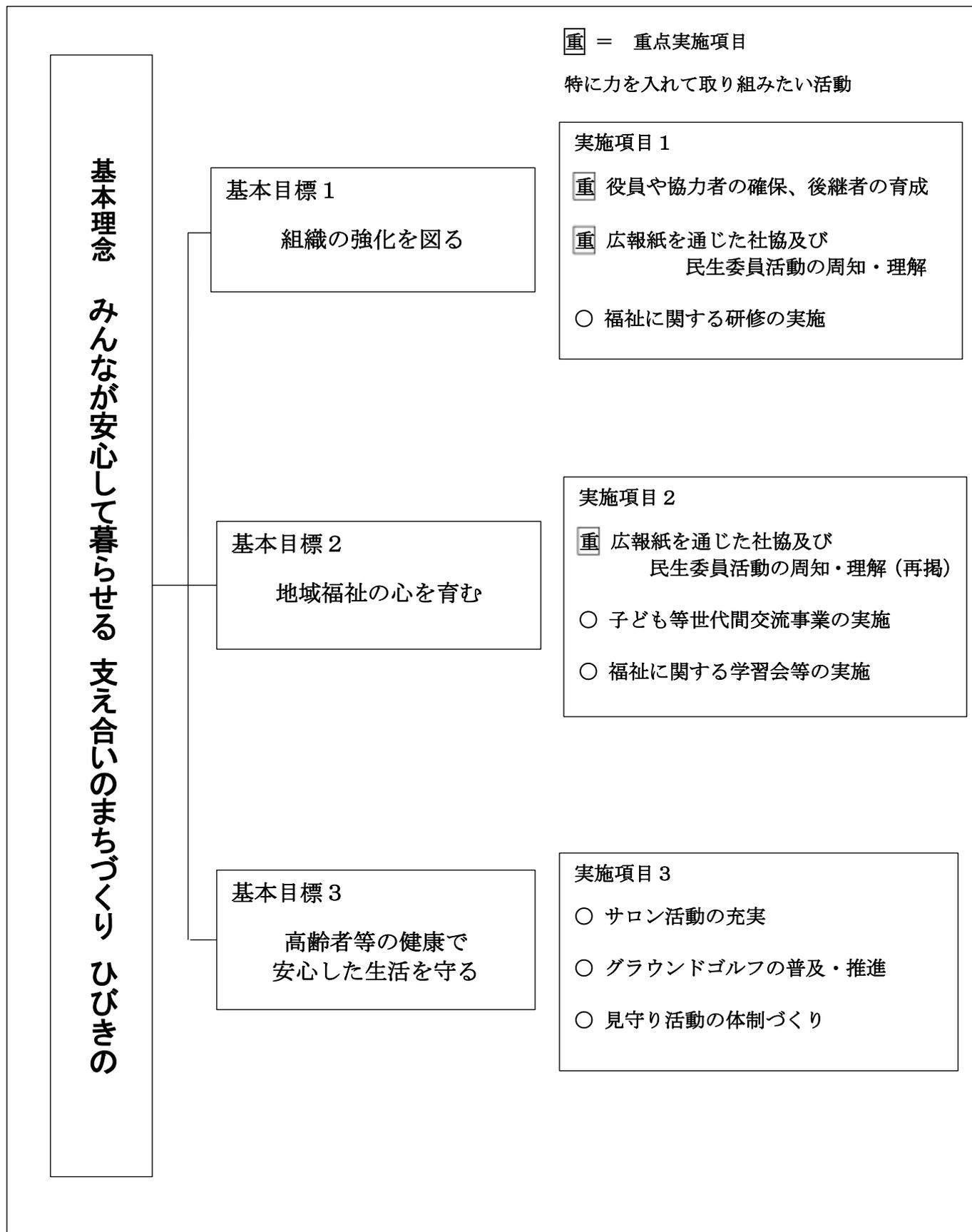
(3) 高齢者等の健康で安心な暮らしを守る

全体的には低いとはいえ、今も支援が必要な高齢者等は地域にいらっしゃいます。そこにもしっかり焦点を当てた事業に取り組み、今後も安心して暮らせる地域にすることが目的です。

- ・サロン活動の充実
- ・グラウンドゴルフの普及・推進
- ・見守り活動の体制づくり



3 実施項目（体系図）



4 重点実施項目

重点実施項目 1	役員や協力者の確保、後継者の育成							
1 課題背景								
<p>現在、事務局長不在で組織が運営されているため、十分な活動が出来ない状況であり、役員の成り手がいなければ、役員の高齢化に伴い、組織そのものの維持が難しくなる。活動の基盤である組織の体制を早急に築くことが必要である。</p>								
2 活動の方針・目標								
<p>・既存の選出方法の見直しや、組長経験者への呼びかけ。またさりげない見守りや繋げ先の周知などによる活動負担軽減への取り組み。さらに役員への業務集中による負担や役員、協力者の確保といった課題に対しては、業務内容を整理し、1人あたりの負担を減らす。また社協活動への理解、協力を得るための活動を実施していきたい。</p>								
3 段取り的な取組みの年次計画								
取り組み内容	連携する機関	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	備考	
組長らと連携した見守りの在り方の検討	・自治会 ・民児協	→		→			点線は検討した内容の実践を目指す。	
役員の確保や業務分担の見直し	・自治会 ・まち協 ・民児協	→						
計画の修正・見直し	・推進委員会			→		→	特に中間（3年次）と更新（5年次）は重点的に行う。	

重点実施項目 1	広報紙を通じた社協及び民生委員活動の周知・理解							
1 課題背景								
<p>どのような活動をこれから地域で進めていくにせよ、地域住民の理解と協力が求められるが、高齢化率が全体として極端に低い地域のため、他よりも地域福祉活動の存在や実態が知られていない現状がある。</p>								
2 活動の方針・目標								
<p>・広報紙、計画、社会福祉協議会（または民生委員・児童委員）に関するチラシなどを作成・配布することで、地域住民の地域福祉活動への周知・理解を図る。</p>								
3 段取り的な取組みの年次計画								
取り組み内容	連携する機関	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	備考	
広報の作成や内容・配布手段の検討	・自治会 ・民児協	→	→				点線は検討した内容の実践を目指す。	
積極的な HP 更新などによる SNS の活用	・区事務所	→						若い世代への広報や周知のきっかけとしたい。
計画の修正・見直し	・推進委員会			→		→	特に中間（3年次）と更新（5年次）は重点的に行う。	

第4章 計画推進

1 地域への計画の承認と周知

- ① 地区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
- ② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
- ③ 計画の配付等を通じた地区住民への周知

以上について、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、ひびきの地区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

以上について、委員会では協議を進めていきます。

(2) 計画の進行管理

ひびきの地区小地域福祉活動計画推進委員会を必要に応じて開催します(当年度の事業推進の確認年度内における中間確認、次年度の事業確認、また必要に応じて開催)。委員会では、PLAN(計画立案) DO(実行) CHECK(点検・評価) ACT(改善)というPDCAのサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、うまく進行していない場合には、その原因を明らかにし、問題への対策を立て、その対応策を実施します



(3) 計画の評価

計画期間の中間点では計画全体の間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

3 第2次計画の策定

第1次計画の推進状況を踏まえて、第2次計画の策定期間(計画第5ヶ年度)には新しく第2次計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて協議を進めていきます。

参考資料【ひびきの地区小地域福祉活動計画の経過】

1 ひびきの地区小地域福祉活動策定委員会 委員名簿

	氏名	所属団体・役職	備考
1	木下 秀雄	ひびきの地区社会福祉協議会 会長	
2	中野 常生	ひびきの地区社会福祉協議会 副会長	旧地区民児協会長
3	北都留 良一	ひびきの地区社会福祉協議会 副会長	
4	高倉 ルミ	ひびきの地区社会福祉協議会 会計	
5	石谷 昭子	ひびきの地区民生委員児童委員協議会 会長	
6	花田 利秋	ひびきの地区民生委員児童委員	
7	山田 和生	ひびきの地区民生委員児童委員	
8	中尾 聡子	ひびきの地区民生委員児童委員	

2 ひびきの地区小地域福祉活動計画策定員会での協議事項



10月27日に第1回小地域福祉活動計画の策定会議を開催し、社協役員及び地区担当の民生委員・児童委員（上記メンバー）を策定委員とすることや、小地域福祉活動計画の説明、策定の意義について説明・理解をいただき、その後お互いの活動についての説明や課題について協議しました。

その後は12月15日、2月9日と策定委員による話し合いを通じて、体系図を中心とした内容を整理していきました。最後の日にはデザイン案も含めての確認を行いその時には完成とは至りませんでした。その後の19日に社協役員で、更にその後は民生委員で個別に集まる機会があり、その場を活用して細かい点の修正や確認をし、3月に完成しました。





この冊子の内容について、詳しく知りたい、また質問がある方が居られましたら、下記、問い合わせ先までご連絡くださいますよう、お願いいたします。

【問い合わせ先】

ひびきの地区社会福祉協議会

〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北 8-28 ひびきの市民センター
TEL 093-701-5161

北九州市社会福祉協議会

【本部】北九州市社会福祉協議会 地域福祉部 地域支援課
〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町 1 番 6 号 ウェルとばた 8 階
TEL 093-882-4425 FAX 093-873-1351

【区事務所】北九州市社会福祉協議会 地域福祉部 若松区事務所
〒808-8510 北九州市若松区浜町一丁目 1 番 1 号 若松区役所内
TEL 093-761-3422 FAX 093-761-3660

★社会福祉協議会のイメージキャラクター★



『プチボザウルス』(Petit vosaurus)

Petit (プチ: ちっちゃな)

Volunteer (ボランティア)

Saurus (サウルス ≡ 恐竜)